

活動成果報告書

令和6年度（第28回）「チョダ地域保健推進賞」

活動テーマ

乳幼児の親子が集う世代間交流の場「こすげのわ」の支援を10年続けて

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

「こすげのわ」

代表者：関 郁子

勤務先：葛飾区役所

所 属：健康部 青戸保健センター

所在地：〒125-0062

東京都葛飾区青戸4-15-14

TEL：03-3602-1284

FAX：03-3602-1298



◇活動方針

東京都葛飾区の小菅1丁目は、区の北西部に位置し足立区境の線路、荒川、綾瀬川に囲まれ、子どもを連れての移動は大変な地域です。また、この地域には大規模な国家公務員住宅があり住民の転出入が多く、子育ての孤立や孤独化の対策は課題でした。

平成24年「気軽に子育てママたちで集まりたい」という一人のママと、それを応援したいという1人の住民の方（以下世話役）が、交流会「こすげのわ」をスタートさせました。健康教育の依頼をきっかけに、保健師のかかわりが始まりました。地域とのつながりや、タイムリーな子育て情報は、転入者にとっても孤立や孤独化を防ぐと考え支援を開始しました。

「こすげのわ」は今年で10年となり、現在では世話役の他、ボランティア13名が会の運営をしています。

ボランティアが全部担うことのないように、『スタッフだけが大変な思いをして継続しても無理がある、参加したママたちも一緒に、やれる人がやれる範囲のことをする』という方針を立て、地域のつながりの創出の場になるように支援しています。

◇活動内容

保健師は訪問等で出会う、引っ越してきたばかりで近所に知り合いがいない親子や、孤立しがちな親子を会に紹介し、会にはその受け皿になってもらっています。

また、世話役の方が、つながりのある地域の元幼稚園の先生や子育て経験のある人に声をかけ、「地域のおばあちゃん、おかあさん」ボランティアとして参加するなど、世代間交流の場ともなっていました。

長い経過の中では、リーダーの転居やコロナによる感染症予防対策など、継続が危ぶまれた時もありましたが、集まる回数を減らし細々とでも『継続することに意味がある』という方針を世話役の方と話し合いながら支援を継続してきました。

活動成果報告書

【実施回数】

現在は月に2回開催しています。

コロナ禍は回数を減らし、人数を制限するなどして細々と継続しました。

【対象者と参加人数】

ボランティア平均5～6人と親子10～15組、一回に総勢40人近くが集まる会に成長しています。

最近はパパの参加も多くなっています。

【活動プログラム】

前半は、自己紹介や普段遊んでいる公園などの情報交換と子育ての悩みを語り合います。

後半はリズム体操です。会場は大いに盛り上がり、参加した親子は思う存分楽しめます。

また、プログラムの内容によっては、保健センターの職員による健康講座や児童館職員の遊びや絵本の読み聞かせなどになることもあります。

◇活動成果

「こすげのわ」は、入園前の乳幼児の親子が気軽に集まれる、地域の憩いの場、世代間交流の場となっています。特に大規模な国家公務員住宅は、遠方から引っ越してきた方も多く、育児や病院、生活情報などを情報交換することでとても助かったという声を寄せています。ほかにも、参加いただいた皆さんから、「交流会は、お友だちをつくるきっかけになりました」、「子育てが大変な時に、子育ての先輩であるスタッフの方に、大丈夫だよって言ってもらったのがうれしかったです」、「仲間ができたことで、まち全体が温かく感じられます」との感想が寄せられていることで、世話人はじめ、ボランティアの方々はやりがいを感じています。

毎年作成している「2023年版 葛飾区協働事例集」にも「こすげのわ」が報告されました。



～葛飾区協働事例集（2023年版）表紙～

活動成果報告書

INTERVIEW

次の世代も住んで良かったと思えるまちにしたいです

親子の交流会では、皆さんで育児や病院、生活情報などを情報交換しています。特に、遠方から引っ越してきた方は、とても助かるみたいです。

参加いただいた皆さんから、「交流会は、お友だちをつくるきっかけになりました。うれしい何よりも楽しいです」、「子育てが大変な時に、子育ての先輩であるスタッフの方に、大丈夫だって言ってもらったのがうれしかったです」、「仲間ができたことで、まち全体が温かく感じられます」といった声をいただくことも。こうした反響は、私たちのやりがいにも通じています。

このまちに住んでよかった、このまちに帰りたいと思える憩いの場所であり続けられるように、「こすげのわ」の活動を、次の世代に引き継いでいきたいと思っています。



Point 1 月2回、親子を対象にした交流会を開催



Point 2 親子の健康園をサポートする園庭整備



Point 3 保健センターや児童館と協働し地域の育児支援に貢献



親子で集える“こすげのわ”

子育ての悩み相談や仲間づくりの場

「こすげのわ」は、小管一丁目に住む入居者の乳幼児の親子が気軽に集まることのできる親子交流会です。育児経験のあるスタッフを中心に13名で運営しています。実は10年前、この地域には乳幼児を連れていける場所がありませんでした。「親子で気軽に集まれる場所があつたらいいのに！そんな一人の子育てママの切なる思いから「こすげのわ」は誕生。今では、地域の仲間づくりの場として大きな存在となっています。

月2回行われる「こすげのわ」では、自己紹介から活動がスタート。住んでいる場所や施設通んでいる公園などの情報も交えて話します。会場の雰囲気も和み、情報交換も活発に。時には子育ての悩みなども語り合います。

交流会の後半は、親子で思いっきり体を動かすリズム体操です。子どもたちも大人気。あつて、会場は大いに盛り上がり、参加した親子は思う存分楽しんでいます。

その他、保健センターから栄養士などを招き、親子の健康園をサポートする講座を開いたり、児童館の先生による遊びや絵本の読み聞かせなども行っています。

今後も「自分たちでやれることをやる時にやれる人がやる」というボランティア精神のもと、スタッフも地域の親子も笑顔でいられる場を提供していきます。

（編集者）西川 保健センター
（連絡先）03-3602-1264

～葛飾区ホームページ 葛飾区協働事例集（2023年版）より～

◇今後の計画

この小管地域の町会は夏祭りや宿泊の子供キャンプ活動など活発に活動している自治町会です。現在、「こすげのわ」は、町会の活動として位置づけられ活動費も得ており、地域に根付いています。最近では退職した保健師OBの参加、子どもを連れて参加していたママがボランティアに加わるなど循環型子育て支援の場となっています。また、ボランティアの年代も幅広く高齢者にも貴重な社会参加の場、世代間交流の場にもなっています。

現在、会の運営は軌道にのり安定しているため、保健師の参加は2か月に1回程度の参加ですが、世話役の方との定期連絡は継続しています。ボランティアの方の高齢化もあり、世代交代が必要と感じています。

保健センターの保健師は、今後も地域に根付いたこのかけがえのないグループ「こすげのわ」を守り、困ったときには駆けつけて応援します。

「こすげのわ」のような会を他の地域にも展開できるよう、地域の力を信じ住民とともに地域活動をしていきたいと考えています。